

高尾山

垂直に連なる人の歩みを受け止め
滑されたこの岩に託されたおもいの
その面は山の気配に耳を澄ます朝影
生まれ出ずる静寂を吃驚し震駭する
法螺貝の咆哮は天狗の颯と聞こえ
蒼穹を打つときを告げる太鼓の響きに
木も草も巖もが競り上がる山なりの
この連なりに手招かれるわたくしたちの姿
芋虫の尺を取るようなそれはそれで
愛すべきと譬えることもあろう
老妻を労わる緩やかな歩みを今は恥じない
白髪を吹き抜ける風に髪梳く妻の指が偲ばれ
自ずと脚を支えてくる二人三脚の結ばれた紐
その絆を結い直すかのような再びの法螺貝
杉の細葉の綾重く天蓋に漣立つ奥の眸
藍映える葦が花開いたかと思え
天もまたその憧れを映すものなのか
妻問う鳥のこだまする谷には
せせらぎに潤う新緑の木漏れ日が岩走り
風さえ歌うかと聞こえる呼び交すいのちに
寢屋で迎えたカジカガエルの春は今朝の間に
(しばらくお休みなさい ではお先に)

今このなごりを留める

この木 この草 この巖 そしてあなた方
風に誘われたかと思える杉木立の間
梢の上に雷光が閃くかと思えた白雲の間
蒼穹を翔ける翼の影は木陰に隠れ

その眼差しは一途に二人の山路を見守り
歩みは遅くとも確かな足取りを励ます
老いた同行の掛け合う声に
日輪の穂先に寄り添う影は実を結び
この山の静けさに深耕するあなたのわたくし
滝行の蒙昧を喝破する魂魄の気合に
垂直を翔ける颯の残像を追えば

今押し上げる上昇に山は応える
この祈りが確実に天へと近づけるのだと

その新たな展望が拓けたとき
自ずと胸に広がる山なりの気概があり
この山にして創造される乾坤がある

木よ 草よ 巖よ

わたくしが送る親愛の眼差しを受けてほしい
わたくしがある無数のあなた方の眼差しに
わたくしたちとなって見えてくるもののある
(頂に立つことに何の意味があるう)

一步に託したおもいを受け止める山であれば
この地位と頂と 違う比重にあるだろうか
山は高いから尊いということはない

標高六百に満たない山を吹き渡る上風下風
水鞠弾む溪流の斉唱輪唱 それに導かれる
伝承を蔵した多くのいのちの和讃

それら結ばれ円環成す一の響
拍を打つ只今の一步に高みは増し
充溢した山の光儀と共に
立ち上がってくるこのわたくし

されば願わずにはおれない
この山を この山にして